

南部清掃工場の 延命と移転は



安藤 賢藏 議員

安藤 南部清掃工場の延命が昨年11月に発表されたのを受けて質問します。

この工場は、昭和50年代に能代市外5ヶ町村衛生事務組合が大きな予算をかけて造った処理施設であり、平成14年度からは、ニツ井町、藤里町のゴミも受け入れ、2機の炉で24時間ゴミを燃やして続けており、平成20年度は2万7千トン燃やされている。近くの住民は24時間、空から目に見えないダイオキシン類の煙を空気と一緒に吸い続けている状況です。それが今度、稼働から長い年月が経ってさらに改修して延命案が打ち出され、平成37年まで稼働を伸ばす計画であります。

私は、22年9月30日の能代

山本広域市町村圏組合議定例会において、「長い間、ゴミの煙を吸わされた周辺住民は、これ以上延命されるのは迷惑である」と発言し、移転も含めて検討してほしいとお願いをした。その際に、齊藤代表理事は「一部の人たちに健康面での負担がかかっているというのはそのとおりであります」と答えており、移転についてはいつでも議論するということであり、これは大事なことです。

人間の命は大事なものです。いわゆる環境のことによって我々住民が被害を受けていることを当局が認めている。当局は、周辺地域住民への説明や同意を得ず、焼却施設延命計画を進めてよいのか。

町長

健康被害が事実であれば調査し、その中身を検証しなければならぬ。検証作業を行った上で、その後も現在地で建設するかどうかを議論しなければならぬと考えている。特定の疾患が当該地域においてあるというのが認められると、次の段階としては、そのような話になっ

ていくだろうと考えている。

安藤 ゴミというのは資源だという捉え方が大分広がってきており、町民が堆肥を作るという初歩的な段階から、さらに炭化して発電エネルギーにもできます。

中国の河南省では、日本のJFEグループがメタン発酵設備ガス発電設備を稼働して1日当たり200トンのゴミを処理し、900kwを発電している。日本・韓国合わせて12基も稼働中である。

今、新設焼却施設を造ると60億の予算が必要とか、溶融炉まで新設すると140億の予算が必要だとかは、町民から反対意見があると当局では「新しく建設する予算がない」という理由で私たちに押しつけているように思えるが。



南部清掃工場

町長

工事の計画については、23年から26年度までの4カ年で策定や設計を含めた総事業費は11億8千万円の見込みである。

一連の改修により10年間延命され、平成37年度まで使用可能となる予定で、仮に現在の南部清掃工場と同程度の処理場を新たに建設した場合、解体費用と合わせて75億2千万円見込まれる。